

# ホクコートップジン®M水和剤

■種類名：チオファネートメチル水和剤  
 ■有効成分：チオファネートメチル ----- 70.0%  
 ■化管法指定物質：チオファネートメチル [第1種] ----- 70.0%  
 アルファ-アルキル-オキサヒドロホルリ(オキシタン-1,2-ジール)(アルキル基の炭素数が16から18までのもの及びその混合物であって、数平均分子量が1,000未満のものに限る。)及びアルファ-アルキル-オキサヒドロホルリ(オキシタン-1,2-ジール)(アルキル基の炭素数が16から18までのもの及びその混合物であって、数平均分子量が1,000未満のものに限る。)並びにこれらの混合物 [第1種] ----- 1.4%

■登録番号：第11575号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：1971.05.01  
 ■性状：淡褐色水和性粉末 45µm以下  
 ■有効年限：4年  
 ■包装：250g×60袋、500g×20袋

## 【特長】

- 広範囲の病害に有効なベンズイミダゾール系殺菌剤。
- 予防効果だけでなく、強い浸透力により治療効果も有する。
- りんご・なしなど果樹類から、果菜・葉菜などの野菜類、花き類など極めて幅広い作物に適用がある。

## 【適用内容】(2025年3月7日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
みかん	そうか病	30倍	8ℓ /10a	4~6月	5回以内	空中 散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布、空中散布 及び無人航空機 散布は合計5回 以内)
	灰色かび病 そうか病	1000~1500倍					
	貯蔵病害(黒斑病)	2000倍					
かんきつ (みかんを 除く)	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000~3000倍	200~ 700ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布及び無人航空 機散布は5回以内)
	貯蔵病害(黒斑病)	2000倍					
りんご	黒星病、うどんこ病 黒点病、褐斑病	1000~2000倍	-	休眠期~ 生育期	1回	灌注	10回以内 (塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内)
	腐らん病 モニリア病(実腐れ) 輪紋病、すす点病 すす斑病	1000~1500倍					
	白紋羽病	500~1000倍					
なし	黒星病、うどんこ病	1000~2000倍	200~ 700ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布	11回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、灌注は 1回以内、生育期 の散布は6回以内)
	腐らん病	1000倍					
	輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1000~1500倍					
	白紋羽病	500~1000倍					
マルメロ かりん	腐らん病	1000~1500倍	200~ 700ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布	9回以内 (塗布は3回以内、 散布は6回以内)
かき	うどんこ病 炭疽病、落葉病 すす点病、黒星落葉病						10回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は6回 以内)
もも	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病						7回以内 (散布は4回以内、 塗布は3回以内)
くり	実炭疽病						

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
ぶどう	灰色かび病、褐斑病 うどんこ病、黒とう病	1000~2000倍	200~ 700 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	収穫45日前まで	1回	散布	5回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期の 散布は1回以内)
	晩腐病、芽枯病	1000倍					
	苦腐病	1000~1500倍		収穫14日前まで	3回以内		
おうとう	灰星病、せん孔病 幼果菌核病	1000~1500倍	—	収穫後 (7月上旬~ 9月上旬)	1回	灌注	6回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内)
びわ	ごま色斑点病	800倍					7回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内、 灌注は1回以内)
	灰斑病	800~1000倍					
小粒核果類	すす斑病(うめ)	1000倍	200~ 700 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	すももは6回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1回 以内、生育期の散布 は3回以内)、 その他の 小粒核果類は 6回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内)
	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1000~1500倍					
いちじく	黒葉枯病	1000倍	1~10 $\frac{\text{㍉}}{\text{株}}$	収穫7日前まで	5回以内	灌注	14回以内 (塗布は3回以内、 灌注は6回以内、 散布は5回以内)
	黒かび病、そうか病	1000~1500倍					
	株枯病	500倍		6回以内			
キウイ フルーツ	果実軟腐病	1000倍	200~ 700 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	収穫前日まで	5回以内	散布	8回以内 (塗布は3回 以内、散布は 5回以内)
あけび (果実)	うどんこ病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
オリーブ	梢枯病			収穫30日前まで	2回以内		5回以内 (塗布は3回以内、 散布は2回以内)
りんご (苗木) なし(苗木) もも(苗木) 桑(苗木)	白紋羽病	500倍	—	植付前	1回	10分間 根部 浸漬	6回以内
7回以内 (散布は6回以内)							
3回以内							
3回以内 (種子への処理は 1回以内)							
水稲	ばか苗病	300~500倍	—	は種前 (浸種前 又は 浸種後)	6~24 時間 種子浸漬 10分間 種子浸漬	3回以内 (種子への処理は 1回以内)	
		30倍					
小麦	雪腐病	1000~2500倍	60~150 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	根雪前	3回以内 (出穂期 以降は 2回以内)	散布	4回以内 (種子への処理は 1回以内、散布及び 無人航空機散布は 合計3回以内、出穂 期以降は2回以内)
	雪腐大粒菌核病	1000倍					
	赤かび病	250倍	60~150 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	収穫14日前まで			
	うどんこ病	1000~1500倍					
	眼紋病	1000倍					
麦類 (小麦を 除く)	雪腐病	1000~2500倍	60~150 $\frac{\text{㍉}}{\text{㍉}}$ /10a	根雪前	3回以内 (出穂期 以降は 1回以内)	3回以内 (種子への処理は1 回以内、出穂期 以降は1回以内)	
	赤かび病	1000~1500倍		収穫30日前まで			
	うどんこ病	1000~2000倍					
	眼紋病	1000倍					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数		
だいず	紫斑病	種子重量の 0.5%	100～ 300 ㍓ /10a	は種前	1回	粉衣	4回以内 (種子への処理は 1回以内)		
		700～1500倍							
あずき	菌核病	700～1000倍		収穫14日前まで	4回以内		散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は4回以内)	
	輪紋病、炭疽病								
いんげんまめ	角斑病、菌核病			700～1500倍					収穫7日前まで
	苗立枯病								
えんどうまめ	炭疽病	1500～2000倍		収穫前日まで	3回以内			4回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 3回以内)	
実えんどう さやえんどう	褐紋病、褐斑病 灰色かび病	2000倍							
えだまめ	菌核病	1500～2000倍		収穫7日前まで	4回以内			5回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 4回以内)	
らっかせい	褐斑病、黒渋病 灰色かび病								
		そうか病、茎腐病		1500倍					
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800倍		収穫45日前まで	5回以内			5回以内	
やまのいも (むかご)									
ばれいしょ	菌核病	1000～1500倍	収穫7日前まで		5回以内 (種いもへの処理 は1回以内)				
かんしょ	黒斑病	200～500倍	-	植付前	1回	20～30 分間 種いも 又は 苗茎部 浸漬	1回		
	基腐病			貯蔵前～ 伏せ込み前		30分間 採苗用 種いも 浸漬			
さといも さといも (葉柄)	黒斑病			植付前		20～30 分間 種いも 浸漬			
キャベツ	根朽病、株腐病	1000倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 2回以内)		
	菌核病	1000～1500倍							
はくさい	白斑病、炭疽病	1500倍		収穫7日前まで					
		1500～2000倍							
カリフラワー	菌核病	2000倍		収穫前日まで					
ブロッコリー	菌核病、根朽病			収穫14日前まで					
非結球レタス	菌核病、灰色かび病	1500～2000倍		収穫21日前まで					
せり	葉枯病	1500倍		収穫14日前まで					
食用べに ばな(花)	炭疽病								
食用ぎく	褐斑病			収穫28日前まで					
セルリー	斑点病			収穫60日前まで					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フオアネートメルを 含む農薬の 総使用回数	
みつば	菌核病	2000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 14 日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)	
みしまさいこ	炭疽病	1000 倍		収穫 30 日前まで				
甘草	株枯病	200 倍	—	植付前	1 回	30 分間 苗浸漬	1 回	
食用ゆり	鱗茎さび症	50 倍				球根 瞬間 浸漬		
レタス	菌核病、灰色かび病	1500～2000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
	すそ枯病	1500 倍		1.5 ㍓ /m <sup>2</sup>				収穫 45 日前まで
	ビッグベイン病 菌核病				1 回	灌注		2 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 1 回以内)
にら	白斑葉枯病、乾腐病	1000 倍	3 ㍓/m <sup>2</sup>	収穫 21 日前まで	1 回	灌注	2 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 1 回以内)	
メロン	つる枯病、陥没病 菌核病	1500～2000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、塗布は 1 回以内、散布は 3 回以内)	
かぼちゃ	白斑病	1000 倍			1500～2000 倍		5 回以内	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
すいか	炭疽病、菌核病							
きゅうり	菌核病、黒星病 炭疽病、うどんこ病 灰色かび病、つる枯病							
うり類 (漬物用)	炭疽病、うどんこ病 灰色かび病、つる枯病							
にがうり	炭疽病、斑点病							
トマト ミニトマト	葉かび病、灰色かび病 菌核病							
なす	黒枯病、灰色かび病 菌核病							
アスパラガス	茎枯病、立枯病	1000 倍						
てんさい	褐斑病	2000～3000 倍			収穫 7 日前まで			
ピーマン	黒枯病、炭疽病	4000～6000 倍	1500 倍	収穫前日まで	3 回以内	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)		
ズッキーニ	うどんこ病							
オクラ	葉すす病							
いちご	うどんこ病	1000 倍	—	収穫開始 21 日前まで	3 回以内	5 分間 株浸漬	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)	
	萎黄病	300～500 倍		株冷蔵栽培 の株冷蔵前		1 時間 苗根部 浸漬		
				3 ㍓/m <sup>2</sup>		仮植時及び 仮植栽培期		灌注

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数	
ねぎ	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核病 小菌核腐敗病	1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、苗根部 浸漬及び苗床灌注 は合計 1 回以内、 散布及び株元散布 は合計 3 回以内)	
	萎凋病 黒腐菌核病 小菌核腐敗病	250 倍	チエホット 1 冊(30× 60cm、 土壌量約 5 ㍓)当り 0.5～1 ㍓	定植直前	1 回	苗床 灌注		
	萎凋病 小菌核腐敗病	20 倍	—			3 分間 苗根部 浸漬		
		200 倍				30 分間 苗根部 浸漬		
たまねぎ	小菌核病	500～1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫前日まで	6 回以内 (但し定植 後は 5 回 以内)	散布	7 回以内 (種子への処理は 1 回以内、苗根部 浸漬は 1 回以内、 無人航空機散布 は 3 回以内、散布 は 5 回以内)	
	灰色腐敗病		—	定植直前		5 分間 苗根部 浸漬		
たらのき	芽枯症	2000 倍	0.1～ 0.3 ㍓ /m <sup>2</sup>	伏せ込み後 萌芽前 但し、収穫 21 日前まで	1 回	駒木 散布	3 回以内 (伏せ込み前は 2 回以内、伏せ込み 後は 1 回以内)	
	そうか病	1500 倍	200～ 700 ㍓ /10a	伏せ込み前 但し、収穫 60 日前まで	2 回以内	散布		
らっきょう	乾腐病	1000 倍	700 ml /m <sup>2</sup>	収穫 7 日前まで	3 回以内	株元 灌注	3 回以内	
ししとう	黒枯病	10000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫前日まで		2 回以内		4 回以内 (種子への処理 は 1 回以内、は種 後は 3 回以内)
れんこん	褐斑病	1500 倍		収穫 14 日前まで				
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000 倍		収穫 7 日前まで	2 回以内	2 回以内		
しょうが	いもち病、白星病	1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	3 回以内		
なたね	菌核病			収穫 21 日前まで	根雪前	2 回以内	3 回以内 (開花後は 2 回以内)	
	雪腐菌核病							
茶	炭疽病、白星病 褐色円星病 輪斑病	1500～2000 倍	200～ 400 ㍓ /10a	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回	
	黒葉腐病	1500 倍						
まめ科牧草	菌核病	2000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	根雪前	2 回以内	5 回以内	5 回以内	
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1500～2000 倍						
ばら	うどんこ病、黒星病							
シクラメン さくらそう	灰色かび病	1500～2000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	—	5 回以内	5 回以内		
ゆり	葉枯病、茎腐病							
きく	褐斑病							
カーネー ション	芽腐病							

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数					
けいとう	茎腐病、輪紋病	1500~2000 倍	100~ 300 ㍓ /10a	—	5 回以内	散布	5 回以内					
ほおずき さんせんか	半身萎凋病											
りんどう	花腐菌核病											
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の 0.1%	—	植付前又は 貯蔵前	1 回	球根 粉衣						
べにばな	炭疽病	1500 倍	100~ 300 ㍓ /10a	—	2 回以内	散布						
観賞用アス パラガス	茎枯病	500~ 1000 倍										
花き類・ 観葉植物 (トルコギ キョウを 除く)	菌核病	1500 倍										
トルコギキョウ	菌核病、斑点病											
樹木類	炭疽病	1000~2000 倍	200~ 700 ㍓ /10a	発病初期	5 回以内			散布				
	褐斑病(つつじ類) 幼果菌核病(さくら)	1000~1500 倍										
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュート・サカホウ菌) 紫かび病(かし) 黒点病(じんちょうげ) 褐斑病(ぼけ) マルガニシテ落葉病(ポプラ) 枝枯病(いぬつげ) 赤枯病(すぎ)	1000 倍										
	たばこ (苗床)	腰折病					1000~2000 倍		2 ㍓/㎡	苗床期	2 回以内	2 回以内
		黒根病					1000 倍					
	桑	裏うどんこ病、汚葉病					1000~2000 倍		100~ 300 ㍓ /10a	—	3 回以内	3 回以内
		輪斑病				1000~1500 倍						

作物名	適用場所	適用 病害名	使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
トマト	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	灰色かび病	100~ 200g/10a	5 ㍓ /10a	収穫前日まで	5 回 以内	常温煙霧	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は5 回以内)

### 【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部分を石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ボルドー液との混用はさけること。
- かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、収穫前3週間以内〔かんきつ(みかんを除く)の場合には収穫前2~3週間の間〕に1回散布すると効果的である。
- 本剤をかんきつ(みかんを除く)の施設栽培には使用しないこと。
- りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので、生育期の通年散布とすること。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- いちごに対して使用する場合には下記の注意を守ること。
  - ◆ 萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ること。
    - ① 萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで防除すると有効である。
    - ② 灌注する場合は下記の注意を守ること。
      - a) 土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意する。

- b) 萎黄病は、土壌温度の高い時(20℃以上)に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理すること。
- c) 土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もあるが、その後の生育や収量の影響は認められていない。
- ③ 苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く(所定時間以上)なると葉害(活着不良)を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守すること。
- ◆ うどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守ること。
  - ① 株浸漬する場合は下記の注意を守ること。
    - a) 株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものである。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意すること。
    - b) 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかないように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすること。
    - c) 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵すること。
    - d) 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理すること。
  - ② 散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意すること。
  - ◆ 1ヶ月間隔で使用することが望ましい。
  - ◆ 生育抑制などの葉害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけること。
- 水稻の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ること。
  - ◆ 消毒後は水洗せずに浸種又は播種すること。
  - ◆ 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさけること。
  - ◆ 粉と浸漬処理薬液の容量比は1：1以上とし、種粉はサラ網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
  - ◆ 低濃度(300～500倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌すること。
  - ◆ 本剤処理を行った種子の浸種に当っては次の注意を守ること。
    - ① 薬剤処理した種粉は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
    - ② 浸種は停滞水中で行うこと。
    - ③ 浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないこと。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水すること。
  - ◆ 薬液処理した種子は、食糧、飼料に使用しないよう注意すること。
- れんこんに使用する場合は、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 麦の雪腐病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当たり100㍓が標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行くと効果的である。
- 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- チューリップの球根粉衣は、植付前または貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣すること。
- 本剤を大型散布機で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌が生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせて、輪番で使用すること。
- だいの紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布すること。
- だいの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用すること。
- 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当たり成木では200～300㍓、苗木では20～30㍓灌注すること。
- かんしょ、さといもの種も消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植付けること。薬剤処理した種もは食糧、飼料に使用しないこと。
- アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象とすること。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また、使用後14日間は入水しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないこと。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守ること。
  - ◆ 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当っては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - ◆ 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までとすること。
- たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布すること。
- 本剤を使用した場合は、ベノミルを含む剤を使用しないこと。ただし、種子への処理、種粉への処理及び塗布処理は除く。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- ❖ 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。